

第5学年道徳指導案

平成17年10月28日(金)1校時

5年3組(男23名 女15名 計38名)

指導者 本宮 真樹

- 1 主題名 やりぬく力 (希望・勇気、不撓不屈 1-(2))
- 2 資料名 夢をチェアスキーにのせて (自作資料)
- 3 主題設定の理由

(1) 価値について

第5学年及び第6学年の内容項目1-(2)は「より高い目標を立て、希望と勇気をもってくじけないで努力する。」となっている。これは、勤勉にくじけず努力し、自分を向上させる児童を育てようとする内容項目で、第1学年及び第2学年での内容項目「自分がやらなければならない勉強や仕事は、しっかりと行う」を受け、第3学年及び第4学年の内容項目での「自分でやろうと決めたことは、粘り強くやり遂げる。」と「正しいと思うことは勇気をもって行う。」を統合した内容項目である。

人間としてよりよく生きていくためには、これまでの生き方に満足するのではなく、より高い目標を立て努力しながら取り組んでいく必要がある。安易な考え方で目標を立ててすぐにあきらめてしまうのではなく夢や希望をしっかりと持ちより高い目標を持つことが大切である。そして、その目標が明確であればあるほど様々な困難や障害が生まれ挫折したり失敗したりすることもある。しかし、それでもくじけずに、不撓不屈の精神で乗り切ったときに人間は大きな充実感と自信を手に入れる。

この期の児童は、様々なことに興味を持つが、困難を伴ったり、努力を要したりすると取り組むことをやめてしまうことがある。しかし、困難を乗り越えた先によりよい姿を見出すことができれば、また進んで行動しようとし、あきらめずに努力する姿が現れてくると思われる。より高い目標に希望と勇気をもってくじけずに努力する強い意志と実行力を育てたい。

(2) 児童について

本学級の児童の多くは、将来の夢を持って生活している。運動会などの学校行事や普段の学校生活など様々な場面において目標を立てた場合には、自分が立てた目標に向かって一生懸命に取り組む児童もいるが、目標は持つが、「大変そうだから」「めんどくさいから」という気持ちから途中で取り組みをあきらめてしまい、最後まで取り組もうとする気持ちに欠ける児童が見られる。

そこで、このような児童に自分の目標や夢に向かって挑戦することにより、感動や喜びを味わうことができることと、様々な困難にぶつかっても最後まであきらめずに努力を積み重ねることが、自分のよりよい生き方につながることを感じ取らせたい。

(3) 資料について

本資料は、横澤高德さんの実話をもとに作成した自作資料である。本時のゲストティーチャーである「横澤さん」は、不慮の事故から下半身が不自由となり、挫折感を味わう。さらに、こんな状態になった自分に子どもが生まれることを知り不安にもなる。そんな時、両手両足がないおじさんの行動に心を動かされ希望をもつようになる。そして、チェアスキーと出会う。自分自身のため、さらには、親として子どもに夢や目標に挑戦する姿を見せるために夢に向かって厳しい練習に取り組む。強い意志をもち、様々な困難や障害を乗り越えて努力していくことが大切であることに気付かせることができる資料である。

(4) 授業の構想について

本時は、ゲストティーチャーに岩手県のチェアスキーの第一人者である横澤高德さんを招いて授業を進める。横澤さんは、昨年度、総合的な学習の時間で児童とゲストティーチャーとして関わったことがあり、児童も知っている人物である。その横澤さんに直接自身の生き方について話をしていただいたり、逆に子どもや教師が質問などをしたりして授業を展開したい。このことは、読み物資料からは得られない直接体験として臨場感を持って児童の心に響き、道徳的価値を深く感じ取ることができるとともに、横澤さんの表情や雰囲気などからその人の思いやねがいを深く感じ取り、横澤さんの生き方や行動に対して感動することができる。考える。「見つめる」段階においては、児童全員の今の夢や目標を紹介し、今までの自分を振り返り、これからの自己の生き方について考えられるようにしたい。

4 全教育活動における本時の位置付け

<教科・特別活動・総合的な学習の時間>

<道徳の時間>

<特別活動・日常生活>

<子どもの意識>

希望・勇気、不撓不屈

学級活動
「クラスのスローガンを決めよう」【4月】
自分たちの学級のスローガンを決めると共に、そのスローガンに向かって取り組もうとする態度と心情を育てる。

・学級活動
各学期ごとに自分の目標を立て、その目標に向かい努力することの大切さを考え、取り組む。

・自分の目標をしっかりと持ち、それに向けて努力しよう。

・希望を持って生きることは大切なことなんだな。

主題名「苦しみに負けない心」【5月】
1-(2)希望・勇気・不撓不屈
資料名「上を向いて歩こう」
ねらい どんなことがあっても自分の目標に向かい、希望と勇気をもって努力し続ける強い心を養う。

・運動会【5月】
自分の係りの仕事や出場する種目のめあてを立て、最後まで取り組む。

・自分の記録を伸ばすために、くじけずに練習に取り組もう。

・目標を持ち、努力することは大切なことだな。

国語
「インタビュー名人になろう」【7月】
目的に沿って尋ねることを整理し、相手にわかりやすく話したり、答えを正確に聞いたりする。

主題名「自分のよさを」【10月】
1-(6)向上心・個性伸長
資料名「日本のまんがの神様」
ねらい 「まんが」という自分のよさを認められた手塚治虫の嬉しい気持ちを理解し、自分のよさを知り、それをさらにのばそうとする気持ちを育てる。

・陸上記録会【7月】
・水泳記録会【8月】
自分の目標に向かって練習をし最後までやりぬこうと努力する。

・自分の記録を伸ばすために、くじけずに練習に取り組もう。

体育【年間を通して】
自分でできる技や運動をより上手に行ったり、自分にとって新しい技や運動に挑戦したりする。

主題名「やりぬく力」【10月】
1-(2)希望・勇気・不撓不屈
資料名「夢をチェアスキーにのせて」
ねらい 夢や目標をもつ大切さを横澤さんの話をもとに考え、夢や目標をあきらめないで、最後まで希望をもってくじけずに努力しようとする気持ちを育てる。

・マラソン大会【10月】
自分の目標に向かって練習をし最後まで走ろうと努力する。

・自分で決めた目標に向かって、途中であきらめずに、最後までやり遂げる心が大切なんだな。
・夢に向かって、しっかりとした気持ちを持ち失敗しても、一步一步努力することはすばらしいことだ。

総合的な学習【年間を通して】
様々な調べ学習に最後まで取り組む。

1-(2)希望・勇気、不撓不屈
より高い目標を立て、希望と勇気を持ってくじけずに努力する。

5 本時の指導

(1) ねらい 夢や目標をもつ大切さを横澤さんの話をもとに考え、夢や目標をあきらめないで、最後まで希望をもってくじけずに努力しようとする気持ちを育てる。

(2) 展開

段階	学習活動と主な発問	予想される児童の発言や心の動き	指導上の留意点や支援
<p>気づく</p> <p>10分</p>	<p>1 パラリンピックの紹介をする。</p> <p>○みなさんは、パラリンピックを知っていますか。</p> <p>2 横澤さんの話を聞き、感想を発表し、学習課題をたてる。</p> <p>○印象に残った場面はどこですか。</p> <p>○何を考えたいですか</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・障害を持つ人たちのオリンピック。 ・事故に遭って、下半身が不自由になる場面。 ・チェアスキーの練習に取り組む場面。 ・事故に遭って、下半身が動かなくなった時の横澤さんの気持ち。 ・チェアスキーの練習に取り組んでいる時の横澤さんの気持ち。 	<ul style="list-style-type: none"> ・チェアスキーを出して、横澤さんの話についての導入を図る。 ・横澤さんの紹介をし、話をしていたいただく。 ・児童に感想を発表させ、「横澤さん」の気持ちの変化に着目させながら課題をたてる。
<p>チェアスキーの練習をするとき横澤さんは、どんなことを考えているのだろう。</p>			
<p>深める</p> <p>25分</p>	<p>3 「横澤さん」の気持ちを中心に考え、話し合う。</p> <p>○事故にあった横澤さんは、どんなことを考えながら過ごしてきただろう。</p> <p>○両手両足がない人に出会ったとき、横澤さんは、どんなことを考えただろう。</p> <p>◎チェアスキーの練習をするとき横澤さんは、どんなことを考えていただろう。</p> <p>4 横澤さんからメッセージを聞く。</p> <p>○横澤さんからのメッセージを聞きましょう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・死んだほうがよかった。 ・この先どうやって生きていけばよいのだろう。 ・もうバイクに乗ることも自分の足で歩くこともできないなんて悲しい。 ・自分もこの人のように強く生きられるだろうか。 ・おじさんありがとう。 ・自分には、まだ手がある。自分にできることを探してみよう。 ・このままではいけない。がんばろう。 ・練習は大変だ。 ・自分の子どもたちにスキーを通して夢にチャレンジする姿を見せたい。 ・チェアスキーで、世界一を目指すぞ。 ・最後まであきらめないでがんばろう。 ・もっと練習をがんばるぞ。 ・絶対に夢をあきらめないぞ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・事故に遭い、夢も生きていく希望も失った横澤さんの気持ちに気づかせたい。 ・事故に遭い、弱気になっていた気持ちが、自分よりも不自由な体でもタバコを吸い近くの人に助けをもらう姿を見て前向きになっていく横澤さんの気持ちの変化に気づかせたい。 ・チェアスキーで、世界一になりたいという横澤さんの夢を押さえるとともに、横澤さんに練習の様子を聞いたり練習のVTRを見せたりし、場面の様子を捉えさせ、その夢に向かって取り組む横澤さんの気持ちにとらえさせたい。 ・横澤さんには、自分の夢に対する今の思いを話していただくとともに、発表した子どもの考えや思いを認め励ましてくださる内容の感想を話していただき今後の意欲につなげる。

見 つ め る 7分	<p>5 自分の夢について発表する。 ○みなさんには、どんな夢がありますか。</p> <p>6 本時の学習から考えたことを発表する。 ○今日の学習を通して、自分の夢や目標について思ったことや感じたことを横澤さんに伝えましょう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・野球選手 ・医者 ・横澤さんのように、夢を持ってあきらめないで最後までがんばってみよう。 ・夢や目標を持つことは大切、でももっと大切なことはそのことに向かってあきらめないで取り組むことだ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちの夢や目標を提示し、自分に振り返らせるようにしたい。 ・価値に関わる体験について自己を振り返らせながら発表させる。
ま と め る 3分	<p>7 横澤さんの子どもの作文を紹介する。 ○横澤さんの子どもの今の夢の作文を紹介します。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・横澤さんの子ども、夢に向かって取り組んでいるんだ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・横澤さんの姿を見て、夢を持ち努力している横澤さんの子どものことを紹介する。

6 板書計画

夢・目標

金メダル

絵

絵

絵

チェアスキーの練習をするとき横澤さんは、どんなことを考えているだろう。

夢をチェアスキーにのせて

下半身が不自由

悲しい
不安
死んだ方がよかった

両手両足がない人にたばこの火をつけてあげる

チェアスキーと出会う

大変な練習

このままではいけない
希望をもって生よう
おじさんありがとう

やめてしまおう
子どもたちのためにもがんばろう
絶対に金メダルを取るぞ
あきらめないで最後までがんばるぞ

あきらめない気持ち

7 資料の分析

- (1) ねらい 夢や目標をもつ大切さを横澤さんの話をもとに考え、夢や目標をあきらめないで、最後まで希望をもってくじけず努力しようとする気持ちを育てる。
 (2) 資料名 夢をチェアスキーにのせて(自作資料)

主な場面	モトクロスバイクで事故にあい下半身が不自由になる場面	両手両足がない人に出会い希望を持つ場面	チェアスキーに取り組む場面	パラリンピックの予選を通過できなかった場面
把握すべき状況	<ul style="list-style-type: none"> ・事故に遭い下半身が不自由になる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・入院していた病院で、両手両足がない人にたばこの火をつけてあげる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分ひとりでチェアスキーを装着する。 ・チェアスキーをしていて転んでしまうと自分一人で起き上がれないこともある。 ・家族や周りの人たちの協力がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・予選のレースで転倒してしまう。 ・パラリンピックには出場できなかった。 ・新しいトレーニングを開始した。
主人公の心の動き	<p>悲しみ 不安 いらだち</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生きる希望を失った。 	<p>希望</p> <p>向上心</p> <p>不安</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今の自分にもできることがたくさんある。 ・できること探しよう。 	<p>不撓不屈</p> <p>希望</p> <p>感動 喜び 決心</p> <p>困難</p> <ul style="list-style-type: none"> ・あきらめないでがんばろう。 ・最後までやってみよう。 	<p>不撓不屈</p> <p>希望</p> <p>決心</p> <p>悔しさ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・くやしいな。 ・また、最初からがんばろう。 ・夢は、でっかく金メダルだ。
児童の反応	<ul style="list-style-type: none"> ・もうバイクに乗ることも自分の足で歩くこともできないなんて悲しい。 ・この先どうやって生きていけばよいのだろう。 ・死んだほうがよかった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・このままではいけない。がんばろう。 ・自分には、まだ手がある。自分にできることを探してみよう。 ・おじさんありがとう。 ・自分もこの人のように強く生きられるだろうか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・最後まであきらめないでがんばろう。 ・チェアスキーで、世界一を目指すぞ。 ・自分の子どもたちにスキーを通して夢にチャレンジする姿を見せたい。 ・練習は大変だ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・絶対に夢をあきらめないぞ。 ・もっと練習をがんばるぞ。 ・予選を通過できなくてくやしいな。
発問	○事故にあった横澤さんは、どんなことを考えながら過ごしてきただろう。	○両手両足がない人に出会ったとき、横澤さんは、どんなことを考えただろう。	◎チェアスキーの練習をするとき横澤さんは、どんなことを考えているのだろう。	○予選を通過できなかった横澤さんは、どんな気持ちでしょうか。

横澤さんの話の概要

「夢をチェアースキーにのせて」

プロモトクロスライダーとして活躍していた横澤高德さんの夢は、世界チャンピオンになることだった。横澤さんは、二十五歳の時にモトクロスコースを岩手県に作った。そのコースでテスト走行中にジャンプで失敗し、体を強く打ち下半身不随なってしまう。下半身不随になり、もうバイクに乗ることも今までのように生活もできないことで、生きる希望を失った横澤さんは、絶望感でいっぱいになった。不安でいらだつ日々が続いた。

そんなある日、病院で両手両足のない人に出会った。その人は、自分でタバコを出し、タバコを吸おうとしたが、自分で火をつけることができないので、火をつけることを横澤さんにたのんだ。そのとき、横澤さんは、自分には手がある。自分には、できることがあるんだということに気付き希望をもち始めた。そして、今の自分にできることを探しはじめた。

たくさんのできることを探していくうちに、リハビリの先生の勧めで、チェアースキーに出会う。チェアースキーをするときにわくわく、どきどきし、昔の挑戦する気持ちもどってきた。そして、パラリンピックで金メダルを取り世界一になることを目標として、練習に取り組むようになった。職場の人たちの理解を得て、冬場は、ほとんど毎日スキー場に通い練習を行うことができた。しかし、スキー場の天候はいつでも晴れではない。雪が降っていて天候が悪い日の方がはるかに多い。練習はスキー場で、自分ひとりでチェアスキーを装着するところから始まる。装着することも大変な作業だ。グレンデを滑ってくる時は、両腕だけで体を支えながら滑ってくるので、腕にかかる負担は、相当なものだ。さらに転んだときは、自分だけで起き上がれないこともある。大変な練習だが、横澤さんは、投げ出さず練習に取り組んだ。練習に取り組むことは、自分自身や自分を支えてくれる人たちのためでもあるが、子どもたちに親として夢にチャレンジしている姿を見せたいという気持ちもあったからだ。

厳しい練習を重ね、パラリンピックの予選に向けて練習をしてきた横澤さんだったが、パラリンピック予選の本番では、転倒してしまった。横澤さんの金メダルの夢は絶たれてしまった。

しかし、横澤さんは、ここで夢をあきらめなかった。三年後のパラリンピックで金メダルをとる夢に向けてまた新たなトレーニングを開始し、チェアースキーで金メダルを取る夢に向かって走り出した。